

第1回美祢市総合計画審議会 総合戦略部会 議事録

日時：令和元年8月5日（月）19：30～20：30

会場：美祢市民会館 第1会議室

	役職	団体名	氏名	出欠
1	部会長	美祢市議会	タケオカ マサハル 竹岡 昌治	
2	副部会長	カルスト森林組合	タカス シュウゾウ 高須 修三	
3		美祢市議会	ナオノ トモカズ 猶野 智和	
4		公募	ウエヤマ マサオ 植山 正雄	
5		公募	ニシダ サキコ 西田 早紀子	欠席
6		山口県立美祢青嶺高等学校	フジムラ シンイチロウ 藤村 慎一郎	
7		一般社団法人 美祢青年会議所	ウチウミ ミツオ 内海 満夫	欠席
8		山口県総合企画部中山間地域づくり推進課	イナガキ カイチ 稲垣 嘉一	
9		美祢市商工会	ナイトウ マサタ 内藤 正太	欠席
10		連合山口美祢地区会議	ナガイ マサオ 永井 政夫	欠席
11		美祢市定住促進協議会	ナガタニ アオゾラ 永谷 青空	欠席
12		山口銀行	ヒエダ ユウジ 稗田 裕司	
13		山口新聞	ヒライワ カズヤ 平岩 和也	
14		美祢市地域組織活動連絡協議会	ミシマ アケミ 三嶋 明美	欠席
15		一般社団法人 美祢市観光協会	ミズタニ マサヤ 水谷 雅哉	
16		山口美祢農業協同組合	ヤマモト ヨシツグ 山本 善継	欠席

<資料>

次第

『資料1』次期「地方版総合戦略」の策定に向けて
第二次美祢市総合計画総合戦略（案）

<その他資料>

委員名簿、配席表、意見書

1 開会

～資料の確認～

2 部会長あいさつ

～竹岡部会長ごあいさつ～

皆さん引き続き、よろしくお願ひいたします。私は三年くらい前から総合戦略に関わっている。今回の部会においてもできる限り前回の会議のメンバーを残してほしいと要望させていただいている。元々3、4年前にまち・ひと・しごと総合戦略としてやってきており、昨年の春まではボーリングで行ってきた。これが予算をとるために一番大事な肝のところとなっている。しかも総合計画を行なっていく上でのエンジンの部分でもある。そのつもりで活発なご意見をいただきたいと思う。是非、皆さんのいろんな意見をいただきながら進めたいと思うのでよろしくお願ひします。

3 議事

(1) 次期「地方版総合戦略」の策定に向けて

事務局より：資料1について説明

部会長：時間的な制約があるので帰って読んでいただいて参考にさせていただけたらと思う。国のほうが少し見直しをしたということでご理解をいただいてそれを踏まえて進めていきたいと思う。これについてご質問があればお伺ひしたい。

事務局：肝心なところを説明しておりませんが、31ページをご覧ください。第2期総合戦略の策定スケジュール案として国の動きとそれと並行して地方でこういう形で行ってほしいということで地方での支援として載せている。先ほど話したとおり6月21日に基本方針が閣議決定されている。これから基本方針に基づいて、総合戦略が12月末の閣議決定に向けて各種検討が進められている。こういった国の動きが各自治体に共有されているところだが、国ではそのような情報をもとに粛々と地方でも総合戦略の策定作業を進めてほしいということである。閣議決定を待つことなく順次進めていき、少なくとも来年の4月の段階では第2期の地方版の総合戦略も走り出してほしいと言われている。実際に4月にこの総合戦略ができていないと交付金等の措置が受けられないということもある。確実にここまで地方でも策定作業を進めていき、切れ目の無い取組を進めていただきたいということで伺っている。

部会長：今から議論するのは一番大事な予算取りをするためにということ認識した上で議論いただきたい。若干わからないこともあるかもしれないが、この戦略会議が予算取りのエンジンの部分とご理解いただいた上で議論を交わしていただきたい。

(2) 第二次美祢市総合計画 総合戦略の臨時専門部会（案）について

①重点戦略1：「働きたい！」希望を実現させる魅力産業の創出の施策について

事務局より：資料1について説明

竹岡部会長：重点戦略1について戦略方針4つ説明がありましたが、KPIも示されているがそれと合わせて質問があればお願ひします。

委員：一番大事な重点戦略だと思うが、マップ的な一枚でよくスキームをつくるが、ぱっとした目玉があるなど全体の戦略方針が出ていないとイメージがわからない。外から凄い人をつれてきてやるのか、美祢の今までの良かったことを活かしながらやるのかというのかわからない。戦略であれば目玉、シンボルがあり、それを外から連れてきてやるのか、美祢の中でつくっていくという戦略なのか見えないので、マップ的なものはないのか。

具体的なアイデアはないが、この4つの方針がどうつなぎあい、何になっていくのかという絵のような戦略イメージ図がないのか。スキームがないと。もっと言うと総合戦略の5つの方針が見えないといけませんが、重点戦略1としてもシンボルというか市民の方がすぐわかるようなものがあればよい。

部会長：確か前は作っていたはず。

委員：観光支援を生かした産業雇用の創出に誰がリーダーシップを取ってやるのか。それが見えない。

事務局：ぱっと見てわかるものがないので、今回は体系的なものもなかったのでこういったものを次回は考えていきたい。

委員：個人的な質問だが、1-4-3のキャッシュレス決裁の導入店舗割合が出ているが、現状値横ばいとなっているが、だいたい今がどれくらいかはわかるのか。数字はないですか。

事務局：2ページは観光で、6ページは1-4-3のKPIについては市全体である。

委員：受入れ環境の整備は何か補助金を出すのか。

事務局：インバウンドの対応でキャッシュレスを導入するということで環境整備という認識である。

委員：現状値はどうか。目標値が40なのでそれより低いのは確かだと思うが。

委員：観光地すら2%となっている。もっと低いと思う。

委員：戦略方針の2について、高付加価値化について、美祢市はいろんな特産品があるが、規模的に小さいものしかない。それをどう集約して美祢のブランド化にもっていくのか。今はロット数が少なく、なかなか外に向けて大きく発信できない。量が限られている。予算を含めて、国に対して要求すると同時に地元がみんなで輪を広げて協働でやっていく。そのような見える形で戦略を考えていかないと前に進みにくい。巧みの世界みたいに一部だけこういうものができたで終わってしまう。それをもっと広げて、共同加工のような施設をつくるなど美祢市で捉えているのかその辺りも考えていく必要がある。六次産業はこれからやっていかないといけないが、方法として、もう少し広げていくような運動論を考えていく必要がある。

事務局：具体的になればそういう方向性を示していかないといけない。総合戦略の部分はそれらを含めて大きく交付金に対応できるような形で広く対象となるように記載するように考えている。それから個別、具体的な共同加工など次のステップで考えていくことになるかと思う。

部会長：六次産業の加工食品はミネコレクションのみという考え方なのか。

事務局：決してミネコレクションに認定されたものだけが六次産業の加工品ではないが、このKPIをみると加工品をミネコレクションに限定しているようにも見える。数値がミネコレクションでないと売上などKPIの目標として現状値の数値がなかなか把握ができないということでそのようになっている。もちろんミネコレクションに認定されたものだけが六次産業の加工品というわけではない。

部会長：結局作っているロットが小さい。今回も目標値は1億増やすだけである。どこまでつまこんで考えられているかもある。DMOは委託をしたからいいということなのか。

副部会長：六次産業の役員なので、六次産業は作られた商品を見ていただいて価値があるように作り直していく作業が多いかなと思う。認定をいただくという形で売りやすくする。ただ、売りやすくしてもものすごく量が少ないものもある。大量生産できているところがほとんどないので。ただ、いいものができたという発表会をして、それが何に値するかという評価を受けている。売上を上げるというより、売りやすくするというところに特

化していると思う。

委員：3 ページの観光施設の受入れ環境の整備について、老朽化した観光施設等の改善について、この観光施設の撤去としてこれは公の施設限定なのか民間も含めてなのか。

事務局：この文面だけではどちらともとれるが、観光地全体ということで民有の観光施設の撤去も含まれるような形で書いていると思う。

部会長：監査の段階で再生計画を含めて全く民間は入ってきていない。市が下を買い取り、観光センターを移すなど、何か展開の方法があるのではといったが、そこまではしていない。皆さんの意見で民間も含めて何とかしないと。またいいたくないが、秋吉台をどうのこうのなど、それを基軸にして、拡充を図るとなると観光に投じる皆さんのコンセンサスを得ないと議会も市民も。公共だけやって観光センターが出来ましたでは何にもならない。老朽化した民間の空屋になっているところをどうやっていくか。民間まで立ち入った考え方を持つことも必要なのではと私は思う。そのため、知恵を出してお金をとってくるのは役人の皆さんの知恵だと思う。

委員：隣の長門は少しそこまで踏み込んで動かれている。それが成功しているかどうかは話は別だが、とりあえず動かれている。そのあたりも参考にご検討いただけたらと思う。それともう一点、観光関係で新たなプレイヤーがほしい。観光業者自体がいなくなっている。既存の観光業者に頑張れといっても限界がある。跡継ぎもいない。できれば新規も外部からほしいということは言っている。今の5 ページのところに事業所誘致の推進とあるが、ここに書かれていることはかなり大きい工場のことだと思うが、これと同じことを観光分野も含めた KPI で入れるなど検討してほしい。大規模な企業だけでなく、もう少し規模の小さい小売店など、中小の分野でも外部からの新たな企業誘致も考えていただきたい。

事務局：観光分野に限らずといことでよいか。

委員：ここの KPI は大きすぎる。目標値が1社とかなので。少し規模が小さいもので目標値を検討してもらえるといいかなと思う。

事務局：事業所誘致の推進について KPI を見直すなり、小さい規模で検討するなどしていきたい。

部会長：時間が25分しかないので重点戦略をすべて説明いただいて、お手元に総合戦略部会の意見書があるので後日出していただいて、もう一度会議がありますので、できれば電話も含めてお願いできたらと思う。それでは重点戦略2から5まで説明をお願いします。

②重点戦略2：「結婚・産み育てたい！」願いが叶う環境の充実の施策について

③重点戦略3：「訪れたい、参加したい、住んでみたい！」MINEの発信と交流の強化の施策について

④重点戦略4：「ずっと住み続けたい！」安心を提供する暮らしの向上の施策について

⑤重点戦略5：「持続可能なまちづくり」の推進の施策について

事務局：資料説明

部会長：ご意見より先に質問を承りたいと思う。もう少し詳しく聞きたいなど質問に対して答えていただくという形にしたいと思う。

委員：質問ですが、13 ページの UJI ターン受入人数を削除されているのは何故か。また、19 ページのマイナンバー取得率が 17.7%となっているが、こういった根拠でお示しされているのか。教えていただきたい。

事務局：UJI の受入人数ですがこの指標を出したときにおそらく市民課の転入者のリストを見たと思うが、UJI ターンの受入れかどうかアンケートを実施している。しかし、現状値は上がってくるが、実際の数値が把握できないということで、目標値もなかなか定めにくい。ため、削除し、空き屋情報バンクの成約件数と奨学金の看護師の確保とさせてもらっている。また、マイナンバーについては数値の確認ができていない。そこについてはマイナンバーの取得について総務課が PR しており、市民にも周知しているのでその辺りで数字のアップを見込んでいるものと考えられる。しかし、17.7%の根拠については明確にはわからないので次回のときに報告させてもらう。

部会長：15 ページの公共施設の 22,500m²について現状は削減面積はゼロであるが、全体はいくらあって、いくら減らすのか。

事務局：現在の公共施設は 256,000m² である。この 22,500m²はこの度の3次の行革のなかで毎年 4,500m²を見込んでいるため、その掛ける5年間ということで 22,500m²という数字にさせていただいている。

部会長：256,000m²は市民一人あたり3倍の面積がある。それに対して、現状からしたら 80,000m²ということか。

事務局：3分の1ということでそうである。

部会長：ご存知の上で伝えないと検討もできない。

委員：8 ページの戦略方針2の子育てサポートの充実について、子育て世代の軽減ということだが、現在の負担軽減策はあるのですか。例えば子ども3人であれば負担軽減されるなど、すでに負担軽減されるものがあるのか教えてほしい。

事務局：医療費の助成では財政的な負担の軽減を行っている。あとはここに書いてあるファミリー・サポート・センターの登録により、利用できるときは利用していただくような体制の充実を図っている。ほかにも医療費や保育料の軽減もある。

部会長：現状のものをそろえて説明できるようにしておいてほしい。

副部会長：18 ページのところをお願いだが、持続可能なまちづくりのなかで、5-1-1、5-1-2があり、1のほうで KPI で森林間伐面積がある。この部分だが、森林組合として持続可能な商品が必要となる。林業であれば循環型林業でなければならない。今、我々が言っているのは切って植えて育てるという言い方をするが、普段であれば、植えて育てて切るだが、切るが先にくるのは、それだけの資源があるということである。その中で大きな木は70年製だが、今木材で必要性を感じているのが、20cmの木になる。そうすると40年から50年でも十分意味をなすことになる。それから秋芳町を中心にしいたけの原木がくぬぎという木になるが、これが10cm級の木の需要がある。しかし、すでに50cm、60cmになっている。こうなると実際には市民の方をお願いする、または自伐入荷となるが、その人達が切るには厳しい状況である。これが現在、阻害する要因になっている。これを何とかしないといけないのが課題となっている。いわゆる適用外のものを使える産業を創らないと一つ前にいけない。例えば個々になるが温室効果ガスであればバイオマスエネルギーに使えるのかどうかなど、そういう形で提案をしてまちの人達が働けるようなサイズに戻してあげないといけない。先ほどの会議の中でマイナスの要素があり、それをプラスに変えればとあった。そうなるという話に変わ

っていく。まずは、一番利用されるしいたけの原木が何かバイオマスの材料になるとか、低炭素社会の何かになるなど、そういうことを産業として戦略していただきたいと思う。それが森林組合からのお願いです。

部会長：しいたけの原木は 10cm ぐらいが調度いいと聞いたが、現状は何 cm なのか。

副部会長：全部は見えていないが 60cm 以上もざらにある。それは使えない。くぬぎは若いときに切ると自然萌芽という形で自然に生えてくるので使いやすいが、大きな木を切ってしまうとなかなか自然に戻るということができない。厳しい状況ではあるが、バランスを取って循環型に戻していけないとますます林業に人が入らなくなってしまう。その辺りを使えないものを使える戦略などを考えていただけると我々も助かる。

部会長：一応また帰られて検討いただけたらと思う。ほかの方でこれも一緒に考えてほしいというのあれば。

委員：19 ページの世界ジオパークを進めてまちが活性化するイメージはあるが、持続可能なのか。世界ジオパーク認定を受けて観光のメッカになったとか経済効果があったという話を聞かない。ユネスコはお金なしでやっていく団体であり、ユネスコ認定されたとしても支援はゼロである。ジオパーク推進に向けて活性化するイメージなのか取った後がこんないいことがあるなどが見えない。これが私も凄く疑問を持ちながら高校生にどう伝えていくのかも。その辺り、持続可能というキャッチーな言葉ではあるが、本当なのかというのは知りたいと思う。

事務局：世界ジオパークということ自体が持続可能なことである。それ自体がということだと思ふ。それによって小学生、中学生、高校生が地域に誇りを持ってもらう。それが持続可能ということで教育の部分でも重点的なところだと思ふ。

委員：観光が裾野が広いので雇用を生んでいく。そのため、重点的なところで DMO を行っているところだが、ここに書いてある舵取り役、マーケティング、マネジメントなのでそこが主体的にやっていく。そういったなかで、私も説明をはっきり受けていないのでわからないが、再生事業でこれからやろうとしていることと、どう整合性をとるかが正直見えない。その辺りをはっきりしておいたほうがよいと思う。やろうとしていることが、DMO のことではないかという気がしてしまう。観光協会が DMO を今後法人登録まで持っていく中で、こういうことをやるということの整合をどうとるのか。私自身が見えていない。そこははっきりしといたほうがよいと思う。

部会長：一番の当事者がわからないといっている。再生事業の業務内容をみたが、観光協会がやることばかり書いてある。大きなお金は市外の業者に渡して、小さなお金は地元業者に渡すといった発想にみえる。皆さんに知恵を出してもらおうとしても再生計画がわかっていないと思う。

委員：DMO は法人格だが、それは別のものをつくるのか。観光協会とは別の法人をつくるのか、観光協会の法人格を利用して何かされるということなのか。

事務局：一般論としてはどちらもありえる話である。担当課もそこまではこの内容では書ききれないと思う。

委員：同じようなことを行う組織が二重に作られるのではと思う。場合によっては二重投資になりかねない。

部会長：今は担当がいないので答えられないかもしれないが、観光を基軸にするという理念から片やそういった問題も出てきている。その辺りも踏まえて観光協会からの質問、森林協会からも提案が出ている。これらについても皆さんで考えていただきたい。議会のほうでも理解しづらく、ではどういう業務をやろうとしているのか見えていない。議会側も 9 月議会に持ち越した形で説明を受けるようになっている。総合計画とどうやって整

合性を持たせるかがなかなか難しい。また DMO を観光協会にお願いしているが、本来は DMO が発注すべき事業を市が発注することになっていると私は思っている。議会の半分はそう思っている。その辺りがわかりにくいですが、皆さんに是非、ご意見としてご提案をいただきたいと思う。

4 閉会